

レーサムグループの非常用発電機「レイパワー」がメディアで紹介

レーサムグループの株式会社レイパワー（代表取締役社長：立川計、本社：東京都千代田区）が手がける非常用LPガス発電機「レイパワー」が、2つのメディアにてご紹介されましたので以下にお知らせいたします。

SDGs MAGAZINE 2026年4月1日掲載

「災害多発時代、レースエンジン技術が都市を守る！非常用発電機『レイパワー』が挑む分散型エネルギーと都市レジリエンス」

SDGsの観点から持続可能な社会インフラへの取り組みを発信するメディア「SDGs MAGAZINE」に掲載されました。本記事では、モータースポーツで磨かれたエンジン技術を応用した非常用発電機が、分散型エネルギーの実現や都市の防災・強靱化にどのように貢献するかについてご紹介いただいています。

▶ <https://sdgsmagazine.jp/2026/04/01/18741/>

VICTORY Sports News 2026年3月18日掲載

「サーキットの執念が『命の砦』を守る レース技術の遺伝子を継承した非常用発電機『レイパワー』の正体」

スポーツメディア「VICTORY」に掲載されました。ル・マン24時間耐久レースなどの極限状態で培われたエンジン開発の知見が、災害時の電力供給を担う非常用発電機へと転用されるに至った背景と思想を、詳しくご紹介いただいています。

▶ <https://victorysportsnews.com/articles/9143>

株式会社レイパワー について

事業内容	LPガスを燃料とする非常用発電機の製造・販売・保守
主な特長	停電を自動検知して40秒以内に起動、72時間以上の連続稼働を実現
技術的背景	モータースポーツ由来のエンジン技術を応用した高信頼性設計
公式サイト	https://raypower-engine.com/

当社は、不動産資産の「長期安定・希少性・流動性」を三位一体で実現することを事業の核心としております。しかし、優れた不動産資産であっても、災害時に電力が失われれば、その資産価値は一瞬で失われます。特に東日本大震災で多くの施設の非常用発電機が稼働しない事例も発生したことを踏まえ、平時の運用負荷を軽減し、いざというときに必ず動く非常用発電機を開発することで不動産資産の価値を守り続ける取り組みを推進しております。

従来型ディーゼル発電機の課題	ポイント	レイパワーの非常用発電機
燃料の経年劣化 ディーゼル燃料品質は経年劣化し、適切に交換されない場合、震災時に稼働不能となるケースがある。	燃料の選択と運用	LP ガス燃料は劣化しない 年 1 回のメンテナンスで最大効果を発揮。被災時のポンベ運用も容易。
重量物ゆへの地下設置 重量が重く地下に設置されるケースが多い。津波・集中豪雨による浸水リスクに晒される。液体燃料は発電機を屋上に設置すると燃料も屋上に保管する必要があり、屋上に燃料保管できないケースが多い。	軽量で高所への設置	エンジン部 55 kg の軽量設計 ガスは、燃料の上昇が可能であり、発電機のみを屋上設置が可能。燃料はガスポンベで狭小エリアに保管することが可能。

< 本件のお問合せ >

株式会社レーサム

広報室：宮島

TEL：03-5157-8880